

平成28年10月21日
土地鑑定委員会

平成28年不動産鑑定士試験合格者の発表

～103名の方が合格しました～

土地鑑定委員会では、8月に不動産鑑定士試験（論文式試験）を実施し、その結果、103名の合格者を決定しました。

また、論文式試験における試験問題の誤り、平成29年試験からの試験問題の見直しに関する検討結果についてもお知らせいたします。

不動産鑑定士試験は、不動産の鑑定評価に関する法律（以下「法」という。）に基づき、不動産鑑定士となろうとする者に必要な学識及びその応用能力を有するかどうかを判定するもので、土地鑑定委員会が短答式及び論文式により行っています。

合格者は、法に基づく実務修習を受講し、すべての課程を修了した後、国土交通省に備える名簿に登録を受けることにより不動産鑑定士となります。

I. 合格者の発表について

1. 平成28年不動産鑑定士試験（論文式試験）合格者受験番号（別紙1）

なお、「4. 発表期日」のとおり、国土交通省及び都道府県にて掲示（国土交通省HPにも掲載）、官報へ掲載。

2. 平成28年不動産鑑定士試験（論文式試験）の結果について（別紙2）

3. 合格者の属性等について（別紙3）

4. 発表期日

(1) 掲 示 平成28年10月21日（金）10時（国土交通省及び都道府県庁）

(2) 官報掲載 平成28年11月 4日（金）（予定）

II. 試験問題の誤りについて

試験科目「会計学」の問題文に誤記がありましたので、（別紙4）のとおりお知らせいたします。

Ⅲ. 試験問題の見直しに関する検討結果について

昨年6月に公表した「不動産鑑定士試験実施の改善について」において、民法・経済学・会計学の試験問題について、平成29年不動産鑑定士試験から必要な見直しを行う予定としていました。

見直しの検討結果について、(別紙5)のとおりお知らせいたします。

(参考) 論文式試験の概要

(1) 試験日時及び科目

平成28年8月6日(土)	10:00～12:00	民法
	13:30～15:30	経済学
平成28年8月7日(日)	10:00～12:00	会計学
	13:30～15:30	不動産の鑑定評価に関する理論
平成28年8月8日(月)	10:00～12:00	不動産の鑑定評価に関する理論
	13:30～15:30	不動産の鑑定評価に関する理論(演習)

(2) 試験地

東京都、大阪府及び福岡県 において実施されました。

【お問い合わせ先】 国土交通省 土地・建設産業局 地価調査課 鑑定評価指導室
課長補佐 元島(30332)
不動産鑑定士係長 染野(30653)
代表電話：03-5253-8111 夜間直通：03-5253-8378 FAX：03-5253-1578

平成 2 8 年不動産鑑定士試験合格者

国土交通省土地鑑定委員会

受験番号	受験番号	受験番号	受験番号
(試験地 東京都)			
1016	1048	1070	1077
1085	1091	1092	1113
1123	1131	1136	1143
1153	1154	1155	1168
1169	1197	1213	1217
1222	1227	1247	1254
1266	1268	1272	1274
1292	1303	1310	1316
1319	1331	1332	1336
1358	1360	1362	1370
1372	1377	1382	1385
1404	1406	1420	1467
1474	1502	1517	1547
1548	1549	1551	1553
1562	1582	1590	1603
1607	1613	1626	1634
1641	1649	1662	1674
1680	1692	1699	1709
1715	1723		
(試験地 大阪府)			
3014	3048	3054	3065
3070	3094	3108	3140
3165	3166	3178	3189
3193	3197	3198	3201
3204	3210	3212	3235
3241	3244	3246	3253
3264			
(試験地 福岡県)			
4053	4057	4082	4091

以上 103名

平成28年不動産鑑定士試験論文式試験の結果について

(1) 申込者数

1,099 人

(2) 受験者数

708 人

(3) 合格者数及び合格点

103 人 (合計 348 点以上を取得した者※)

※科目別に設定された合格基準点を満たさない者は除く。

(4) 科目別結果

・ 民法 (配点 100)

平均点 49.4 点

・ 経済学 (配点 100)

平均点 39.8 点

・ 会計学 (配点 100)

平均点 37.4 点

・ 不動産の鑑定評価に関する理論 (配点 300)

平均点 122.9 点

(5) 総合結果

平均点 250.0 点

最高点 467 点

合格者の属性等について
(平成28年不動産鑑定士試験論文式試験)

① 性別	男性	89名
	女性	14名
② 年齢	平均	35.0歳
	最高齢	65歳
	最年少	18歳

③ 年齢別合格者調

	受験者数	合格者数	合格率
30歳未満	120名	33名	27.5%
30歳以上35歳未満	122名	19名	15.6%
35歳以上40歳未満	130名	24名	18.5%
40歳以上45歳未満	96名	10名	10.4%
45歳以上50歳未満	86名	9名	10.5%
50歳以上55歳未満	55名	2名	3.6%
55歳以上60歳未満	45名	4名	8.9%
60歳以上	54名	2名	3.7%
合計	708名	103名	14.5%

平成28年不動産鑑定士試験（論文式試験）における試験問題の誤りについて

平成28年不動産鑑定士試験（論文式試験）の試験科目「会計学」の問題2の問2について、問題文に誤記があったため、以下の措置を講じました。

【誤記の内容】

問題2 問2の文章1行目から2行目

「期末の帳簿価額が（イ）より低い場合には（ウ）損失を認識する。」

とある文章は、

「期末の帳簿価額が（イ）より高い場合には（ウ）損失を認識する。」

と表記されるべきものでした。

（正答 （イ）：回収可能価額、（ウ）：減損）

【講じた措置】

受験者にとって不利な取扱いとならないよう、空欄（イ）、（ウ）の解答については、受験者全員を正答として採点を行いました。

今回の試験における取扱いは以上のおりですが、試験問題に誤りがあったことをおわび申し上げますとともに、今後の出題に当たっては、細心の注意を払ってまいります。

試験問題の見直し（民法・経済学・会計学）について

昨年6月に公表した「不動産鑑定士試験実施の改善について」の別紙「試験問題の見直しについて」において、民法・経済学・会計学については、平成29年不動産鑑定士試験から必要な見直しを行うこととしていました。

見直しについての検討の結果、これらの3科目については、大学等における授業や市販の参考書などにより学習の機会が広く確保されていること、実務的な知識や実務経験を有さなければ解答が困難な問題の出題は特段見られないことから、学生等の特定の受験者が不利となる要素は少ないと考えられるため、現行の出題内容を基本的には継続することとします。

ただし、受験者にとって受験のための学習が過度の負担とならないように、出題にあたっては、以下のような点に留意することとします。

- ・ 問題の一部を空欄補充問題とすること（民法を除く）や、設問を小問に分けて出題することなどにより、学習で身につけた基礎力や応用力を幅広く確認できる出題構成とする。
- ・ 民法については、解答にあたって参照すべき条文を試験問題に掲載するとともに、権利関係が過度に複雑な事案の出題を抑制する。
- ・ 経済学については、高度な数学の知識を必要とする問題の出題を抑制する。